京都府・龍谷大が連携

臨床宗教師 自死遺族支援事業で

京都府は、臨床宗教師の養成研修をしている龍谷大大学院実践真宗学研究科と連携し、3月に研修修了者が参加する自死遺族の語り合いの場「京風 Café de Monk『きょうのモンク』～臨床宗教師による自死遺族のための居場所～」を開く。全国的にも珍しい行政と宗教者の連携事業として注目される。

府では昨年3月、自死対策の推進を定めた「京都府自殺対策に関する条例」を都道府県レベルでは初めて制定。毎年3月1日を「京都いのちの日」とし、同月を「自殺対策強化月間」に定めるなど、様々な啓発活動や諸分野連携の支援体制の整備を展開する。

「きょうのモンク」は3月4日に長岡京市、同7日に福知山市でそれぞれ開催。府では従前から「くらしとこころの総合相談会」に僧侶が常駐する相談ブースを設けるなどしており、臨床宗教師養成を進める龍谷大と約2年前から協議を重ねていた。

同大の養成研修の修了者10人程度が参加を予定。同事業の直接の委託先は浄土真宗本願寺派の僧侶を中心に活動する京都自死・自殺相談センターで、参加者は2月に同センターで実習を受けた上で「きょうのモンク」に臨む。

21日の龍谷大主催シンポで「きょうのモンク」を説明する大辻課長

府健康福祉部福祉・援護課自殺対策推進担当の大辻忍課長は「例年の相談会では宗教的な部分について話を聞きたいという方も来られる。京都は宗教者が多い。そうした京都の特色を踏まえ、宗教者の方々にもご活躍いただきたい」と期待。

龍谷大の臨床宗教師研修主任の鍋島直樹教授は「政教分離を踏まえつつ、公共空間での宗教者の社会貢献を考え続けていきたい。『きょうのモンク』には精神保健福祉士や臨床心理士らも参加し、チームを組んで情報共有や必要な支援にも対応する方針だ」と話している。

「きょうのモンク」の概要は、1月21日に京都市下京区の龍谷大大宮学舎で開かれた同大主催のシンポジウム「臨床宗教師研修の反省と新展開」で大辻課長が説明した。

府の自死対策をめぐっては、初めての「京都いのちの日」となる3月1日に予定される府主催の記念行事に合わせ、本願寺派総合研究所現代宗教課題研究部会の自死問題研究セクションが、自死念慮者や自死遺族に向けた宗教者のメッセージ集の発行を計画している。

（池田圭）